

が掃除して下さるのを見ながら、平氣で知らん顔をしてる
られるやうな、そんな、汚れた靴の革のやうな堅い心もち
にしたくないのですつて。それでもまだよく分らなかつた
ら、はつきり言つておやりなさい。靴の掃除をして何故よ
くないのですか。それも自分の靴の掃除を。——世に

は、わが子を殿様か公達のやうに育てるこばかり考てる
る親があるのですからね。
食事前後の挨拶。——子さもにさせる訓練要目としては、
こゝに始めて出て來ましたが、先生は前からいつもしてゐ
るのでないこ眞の訓練になりますまい。又、先生さへ前か
らそうしてゐるなら、何も第二保育期第十三週を待つまで
もないこであるらう。

第十四週

誘導保育

第十三週

紙箱の家

紙箱、殊に深い目の紙箱は、じつと見てゐるいろいろ
のものの主體に利用して面白い。箱の家、箱の動物の胸

危険な遊びを避けることは、その折そのことに就て、必
要ならば注意を與へるこいふ具合でいいであらう。それを、
子さもはまだ知らない前から、これくの遊びはいけない
こ、却つてそんな、危い遊びを知らせるやうなこはしない
がいゝだらう。

こゝろで、生活訓練には舉げてないが、そろくお正月
が近づいて来る。子さも達の、今一番樂しみにしてゐるの
は、そのお正月である。その心のたのしい思ひを汲んで、
その話を持ち出して、よろこばしてやることも、心の訓練
の一つである。訓練といふのは可笑しいこいふ人もあるか
も知れないが、喜びを喜びこして呉れるのを喜ばせること
は、相當意味のある訓練である。

等に利用する誠にらくで、それでしつかりしてて、始めから作り上げるよりは、こんなに效果的であるか分らない。さうせこういふ厚紙での組立てなきは、幼児の手では出来ないから、大人が手傳つてやらねばならないので、出来る事なら、こういふ箱を利用する様にし度い。何處の家でも不用の箱は有るに違ひないから、入園のために、親達に廢物利用の意味で空箱利用を時々するから、捨てぬ様にご願つておく。

こゝで子供等に相談を持ちかける。

「今度はみんなでもつて街を作りませう。お店さんの並んでる町を作りませうね、みんなが一軒づゝお店を作るのよ、出来たらそのお店を順々に並べるさ、いろいろのお店屋さんの並んでる町になりますね。」

先生から御願してありますから皆さんのお家にはきっとお母様が箱を捨てないで取つて置いて下さいましたよ、それをみんな見せて頂いて、ご自分の作り度ご思ふお店になりそうな箱を、いたゞいていらつしやいなボカツミした顔をして聞いて居る様でも、案外にひゞ

いてゐるものだ。その證據には殆んきの人が忘れないで持つて来る。忘れて来ても、人のを見て、次々と持つて来て四五日の間には、みんなのが揃つてしまふ。扱つていよく製作に取りかかるのであるが、この子供達は、一人の子として、この様な手ごたへのある製作をするのは始めてであるし、仕事の方としても、出来てる箱に細工をするのであるから、全く子供だけの力では、折角もくろんでも、目的實現と言ふ事はなかく、六ヶ敷い。それで始めから相談相手となり、必要な場合には相當に助力してやらなければならない。この助力は、子供に依頼心を起させる導火線となる様な、助力であつてはいけない。そこまでも、子供の作らうとする心持を手傳つてやる心持であらねばならない。それが爲めには、或程度まで手を入れておいて、そこで、はたさ次の仕事の必要を具體的に實感させる、と言ふ様なテクニックを講じて見る場合も多い。こゝでいろいろ苦心させて見て、又一寸手傳つて次の必要に行き遭はせる。こうして次々と必要感を刺戟しながら、又或時は、手を出さ

すには居られないと言ふ氣持から、實際の仕事を手傳つてやる事が多いのである。幼稚園の仕事は、大抵先生と幼兒の協力製作であると言つてもよい。手傳つてやる事は、その狙ひ所さへ誤つてゐなければ、ちつとも悪い事ではない。のみならず、幼稚園位の子供にはむしろ必要なのである。何故必要かと言ふと、子供の遊びの中には、よく發動に於て目的的である場合があるのであるが、その中に大人がは入つてゐて、その折角の目的を持ちつゞけてやり、又途中の仕事を手傳つてゞもやらないと、折角の目的が、いつの間にかふつ飛んでしまつてゐる事が多い。始終これでは、即ち目的を持つても、その目的を完成した事が無くては、遂には子供は目的を持たうとはしない様な子になつてしまふ。生活を捨てゝしまふ様な子供になつてしまふのである。手傳は、實に子供等の目的實現をはかつてやる爲に必要なのである。

こんなわけで、是非、相談相手や手傳が必要であるので、この仕事の實際に於ては、大勢の子供を一緒にと言ふ事は殆んど出來ないと言つてもいい。精々、一人の指導

者が、一時に五六人見てやれる位のものと思ふ。餘程條件を考へてやらなければならない。さこの幼稚園でも、何時でもと言ふわけには行かない。尤も、一通りの、通り一ペんのものを作るだけなら、何時でも、又何人でも出来るであらうが、一人に就て、心ゆくまで充實指導をし、更に誘導指導まで與へ様にするには、勢ひ少數か、指導者が多人數と言ふ事になつて来る。

さしづめ、窓を開け様、ドアを開かうと言ふには切り抜いてやらねばならない。

お二階を作らうか、品物置臺をさうしやうかと思案にくれる子には相談相手になつてやらねばならない。

セロハンだの、色紙だの厚紙だのをふんだんに備へておいて、いつでもおいそれと與へられる様にしておく。

この仕事を始めるごと、今までほんやりと霞を通して見えていた様な町通りであつたのに、目の醒めた様な瀬瀬で見る様になつて來る。先生までがそつだま、殘念ながら白状せざるを得ない。即ち社會興味と言ふものが活氣付けられ、従つて觀察と言ふ事にもなり、手技と言ふ事

も期待出来る。

この仕事は、かなり發展性を持つものではあるが、一
先づ今學期で打ち切る事として繼續時間を見
る。

第十四週

紙箱の家つゞき

前の續きを、今度は誰さんのお店を始め様、と言ふ工
合で、今週はずつと折さへあれば、この箱の家に精進
をつゞける。お店の出来た人には、中に住んでる人、品
物、お店の造作にこりかゝらせる。

第十五週

紙箱の家つゞき

今週も紙箱の家をつゞける。ボッボッ完成した分は町ら
しく並べて置く。みんなの分が出来上った時に、お店屋
さんの種類を勘定して見たら次の様だった。

おもちゃ屋	二
自働車屋	一
時計屋	五
郵便局	一
お菓子屋	五
酒屋	一
火の見櫓	一
八百屋	一
薬屋	一
人形屋	一

これ等を、今度は改めて然るべく並べて街の景に作る。
子供等も改めて見なほしてよろこばしげである。

ここで今學期はおしまひになるので、仕事もここで一先
づ打ち切る。併しまだく發展しなければならない。第一
一、街の景物が何もないし、人も車も通つてゐない街に
なつてゐるから。

植木屋

一